

FLS（骨折リエゾンサービス）委員会

整形外科 部長 西井幸信

委員会概要

FLS（骨折リエゾンサービス）委員会はこれまで骨粗鬆症に対して行ってきた骨粗鬆症リエゾンサービスに加えて、骨折後の二次骨折予防として次の骨折を起こさないようにする目的とした骨折リエゾンサービス (FLS) クリニカルスタンダードに基づいて、当院でも他職種による FLS メンバーの活動が 2022 年 6 月から行われるようになり、その後承認を受けて委員会として設立されました。FLS クリニカルスタンダードは骨粗鬆症財団、日本整形外科学会、日本骨折治療学会、日本臨床内科医会、日本老年医学会、日本運動器看護学会、日本運動器理学療法学をはじめとする多数の学会から支持されており、二次骨折予防は高齢化社会における健康寿命の点で重要な課題の一つになっています。

委員会活動としては昨年度 FLS クリニカルスタンダードのスキームに基づいて多職種による院内プロトコルを作成した大腿骨頸部骨折患者に対する二次骨折予防に対する取り組みを委員会として支援しています。委員会は 3 ヶ月に 1 回程度の開催しており、これまでの集計を行い、関連施設への情報提供を行うとともに、FLS 活動における問題点を抽出し、FLS の修正を行っています。

当院では年間 200 から 300 例の大腿骨頸部骨折患者の手術治療を行っていますが、FLS 活動開始前には大腿骨頸部骨折治療前に骨粗鬆症の治療を行っていなかった患者に対して退院時に骨粗鬆症の治療を開始されたケースは 5%未満でしたが、FLS 活動を開始してから 80%超に骨粗鬆症の治療が行われるようになってきました。しかし、術後 4 ヶ月時点での治療継続状況について調査したところ、治療継続できていたケースは 60%に低下しています。様々な要因があると推察されますが、超高齢社会である高知県において対象患者が高齢である点は影響していますが、それを踏まえても関連施設、かかりつけ医との連携、情報共有を今後さらに深める必要性を感じています。

大腿骨頸部骨折地域連携パスとの情報共有

すでに稼働している大腿骨頸部骨折地域連携パスミーティングで地域連携パス登録いただいている施設にも当院での FLS 活動について報告を行いました。

学術発表・講演会等

VHJ 整形外科部会主催の web 講演会で当院における FLS の発足、活動について講演するとともに、FLS 活動に関連する学会である日本脆弱性骨折ネットワーク (FFN) 学術集会において当院の FLS 活動について整形外科の西田医師が学会発表しています。